



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 京都大学言語学研究 2004, 23

ISSUE DATE:

2004-12-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87848>

RIGHT:

京都大学言語学研究

第23号

論文

Кыпчаки-кто они?	Л.Ю. Тугушева	1
Building an Annotated Corpus and a Lexical Database of Modern Hebrew in XMLTsuguya Sasaki	17
On the Cleft Sentence and the 'Nominalized' Sentence in Irish	...Chiye NAKAMURA	47
シュメール語の動詞接尾辞における母音の同化について	森 若葉	63
キルギス語において使役が受動の意味をもつとき	大崎 紀子	85
華夷譯語内種本『韃靼譯語』におけるモンゴル語について	越智 サユリ	115
アムドチベット語チャプチャ・チェルジェ牧民方言の音声分析	鈴木 博之	145
ロシア所蔵チベット語珍袖本について (1)	白井 聡子	167
ロシア所蔵ウイグル語断片の研究4		
—『千字文』(続編)『大乘法苑義林章』(続編)—	庄垣内 正弘	191
京都大学言語学懇話会 2003-2004年度活動報告		211

2004

京都大学
大学院文学研究科
言語学研究室

「京都大学言語学研究」(24 号)の原稿募集について

京都大学言語学研究(24 号)の原稿を募集します。投稿される方は次の執筆要項によりご提出下さい。

執筆要項

1. 原稿種別

- (1) 研究論文
- (2) 研究ノート
- (3) 懇話会要旨

2. 研究論文

論文は完全原稿を提出すること。採用論文については後日フロッピーディスク(MO ディスク、CD-R など可)を提出する。電子メールでの投稿も可能ですので、ご相談下さい。

- (1) 原稿枚数: 図表などを含めて A4 版用紙 30 枚程度とする。
- (2) 文字のサイズ: 日本語論文は明朝体 12 ポイント(1 行 37 字程度)・1 ページ 35 行程度、欧文論文は 12 ポイント・1 ページ 35 行程度(1.5 スペース程度)とする。
- (3) 原稿の余白設定等: 各ページのマージンを上下左右:30、35、30、30mm とる。ページ番号は印字せず、右下隅に鉛筆で記入する。
- (4) タイトルと氏名: 1 ページ目のはじめにタイトルと氏名(中央揃え)を入れること。タイトルは 14 ポイント太字とする。なお、タイトルの上には 2 行分の余白を設け、タイトルと氏名の間に 1 行分、氏名と本文はじまりとの間に 2 行分の余白を設ける。
- (5) 注について: 注は通し番号をつけ、各ページの末尾におく。文字サイズは 10~11 ポイントとすることが望ましい。
- (6) 要旨: A4 版用紙 1 枚の要旨を付ける。要旨は本文と異なる言語で書くのが望ましい。要旨にもタイトル・氏名を入れる。スタイルやタイトル・氏名の体裁については上記に準ずる。要旨文のはじまりの左上部に「要旨」「Abstract」等と太字で表記し、要旨文のはじまりとの間に 1 行分の余白を設けること。
- (7) 採否: 原稿の採否については、編集委員会で決定させていただきます。
- (8) 原稿締切日: 2005 年 6 月 30 日
(郵送の場合は 6 月 30 日の消印有効)

3. 研究ノート

- (1) 原稿枚数: 図表などを含め A4 版用紙 10 枚程度とする。
- (2) その他、スタイル等は、論文に準ずる。
- (3) 採否: 原稿の採否については、編集委員会で決定させていただきます。
- (4) 原稿締切日: 2005 年 6 月 30 日
(郵送の場合は 6 月 30 日の消印有効)

4. 懇話会要旨

「京都大学言語学懇話会」での発表の要旨を掲載します。

- (1) 原稿枚数は A4 版用紙 1 枚とする。
- (2) その他、スタイル等は、論文に準ずる。
- (3) 原稿締切日: 懇話会発表当日

5. 連絡先

投稿は下記住所にて受け付けます。

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科 言語学研究室

電話/Fax: (075)753-2827

電子メール: KULR@ling.bun.kyoto-u.ac.jp

6. その他

- ・採用された原稿及びフロッピーディスク類は返却いたしません。
- ・ \LaTeX で執筆する場合は、上記の書式に合わせたスタイルファイルを用意していますので、編集委員までご連絡下さい。
- ・抜き刷りの印刷費用は原則として投稿者の負担とさせていただきます。
- ・執筆者には、掲載号を一部進呈いたします。
- ・第 24 号は、2005 年 12 月発行を予定しています。

編集後記

『京都大学言語学研究』 第 23 号も無事発行の運びとなりました。編集作業にあたりご尽力いただいた多くの方々に対し、改めてここに謝意を表します。

本誌はより良い雑誌を目指し、今後も様々な点が変わっていくと思います。皆様方には、今までと変わらぬご協力をお願いいたします。

編集委員長

2004 年 12 月 24 日 発行

編集委員長 川澄哲也

副編集委員長 岡田理恵子, 越智サユリ.

編集委員 安部麻矢, 稲垣和也, 大浦真, 岸田泰浩, 倉橋農, 嶋田珠巳,
庄垣内正弘, 白井聡子, 鈴木博之, 田窪行則, 中村千衛, 西村周浩,
西村多恵, 林範彦, 稗田乃, 藤代節, 藤原敬介, 藪司郎, 吉田和彦,
吉田豊.

(五十音順)

発行者 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Edited by KAWASUMI Tetsuya, OKADA Rieko, OCHI Sayuri, ABE Maya,
INAGAKI Kazuya, OHURA Makoto, KISHIDA Yasuhiro, KURAHASHI Minori,
SHIMADA Tamami, SHŌGAITO Masahiro, SHIRAI Satoko, SUZUKI Hiroyuki,
TAKUBO Yukinori, NAKAMURA Chie, NISHIMURA Kanehiro, NISHIMURA, Tae,
HAYASHI Norihiko, HIEDA Osamu, FUJISHIRO Setsu, HUIZWARA Keisuke,
YABU Shiro, YOSHIDA Kazuhiko, YOSHIDA Yutaka.

Published by Department of Linguistics
Graduate School of Letters, Kyoto University,
Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto,
606-8501 Japan

Kyoto University Linguistic Research

Vol.23

Articles

TUGUSHEVA, L. JU. : Kipchaks — who are they ?	1
SASAKI, Tsuguya : Building an Annotated Corpus and a Lexical Database of Modern Hebrew in XML	17
NAKAMURA, Chiye : On the Cleft Sentence and the 'Nominalized' Sentence in Irish	47
MORI, Wakaha : Vowel assimilation in Sumerian verbal suffixes	63
OHSAKI, Noriko : When Causatives Mean Passive in the Kyrgyz Language	85
OCHI, Sayuri : Phonology of middle Mongolian in 'Da-da yi-yu'	115
SUZUKI, Hiroyuki : Amdo Tibetan Chabcha / Cherje Nomadic Dialect : Phonetic Analysis	145
SHIRAI, Satoko : A Tibetan pocketbook in a Russian manuscript collection (1)	167
SHŌGAITO, Masahiro : Four Uighur fragments preserved in Russia — Further research on 千字文 <i>qian zi wen</i> and 大乘法苑義林章 <i>da cheng fa yuan yi lin zhang</i> —	191
The annual report of Kyoto University Linguistic Colloquium 2003-2004	211



2004

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University